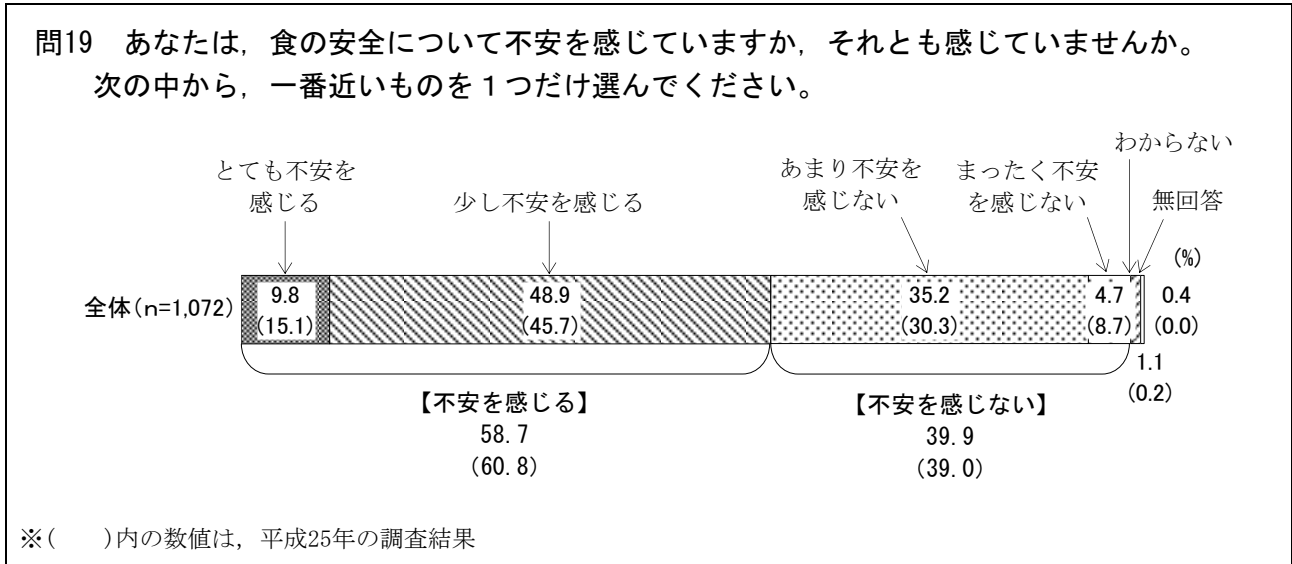


VII 食の安全

1. 食の安全に対する不安感

(1) 食の安全に対する不安感

－【不安を感じる】が約6割－



食の安全に対して、「とても不安を感じる」(9.8%)と「少し不安を感じる」(48.9%)を合わせた【不安を感じる】(58.7%)が約6割となっている。一方、「あまり不安を感じない」(35.2%)と「まったく不安を感じない」(4.7%)を合わせた【不安を感じない】(39.9%)は約4割となっている。

－「とても不安を感じる」が約5ポイント減少－

前回調査(平成25年)と比べると、【不安を感じる】では大きな差はみられないが、「とても不安を感じる」が約5ポイント減少し、「少し不安を感じる」が約3ポイント増加している。

－鹿行で【不安を感じる】が6割台半ば－

地域別でみると、【不安を感じる】は、鹿行(63.6%)で6割台半ばと最も高くなっている。

－女性で【不安を感じる】が男性よりも約11ポイント高い－

性別でみると、【不安を感じる】は、女性(64.1%)が男性(52.8%)よりも約11ポイント高くなっている。

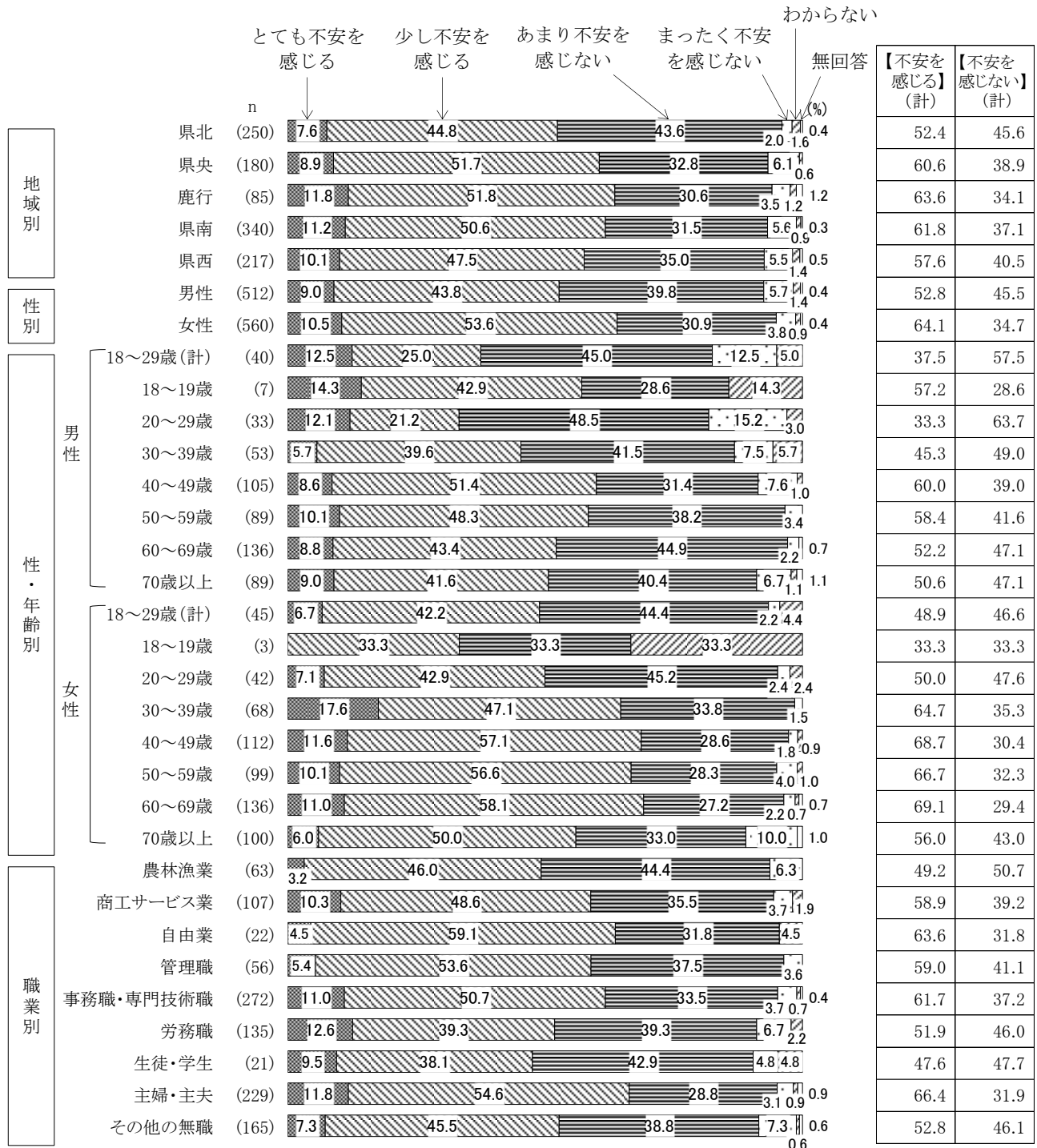
－女性の40代から60代で【不安を感じる】が6割台後半－

性・年齢別でみると、【不安を感じる】は、女性の40代(68.7%)、50代(66.7%)、60代(69.1%)で6割台後半と高くなっている。

－主婦・主夫で【不安を感じる】が6割台半ば－

職業別でみると、【不安を感じる】は、主婦・主夫(66.4%)で6割台半ばと最も高くなっている。

図Ⅶ 19-1 食の安全に対する不安感
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別)



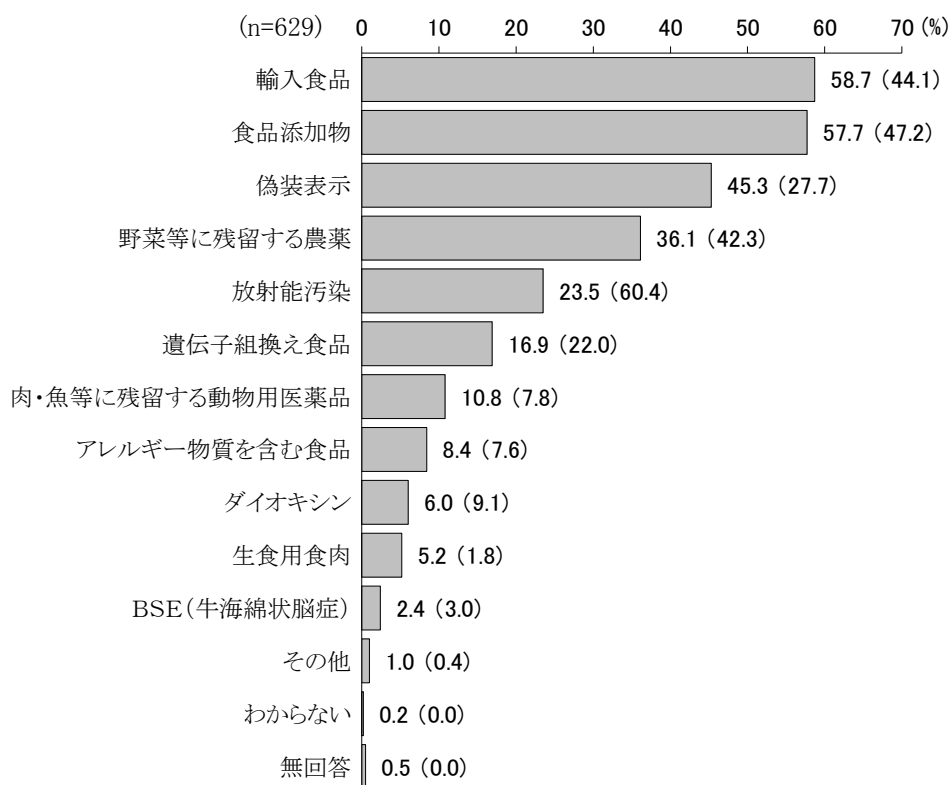
(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

(2) 食の安全に対して不安に感じること

— 「輸入食品」と「食品添加物」が約6割—

(問19で「1 とても不安を感じる」, 「2 少し不安を感じる」と回答した方のみ)

問19-1 あなたは、食の安全について、主に何が不安ですか。次の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。



※()内の数値は、平成25年の調査結果

食の安全に対して【不安を感じる】と回答した方に、不安に感じることを聞いたところ、「輸入食品」(58.7%)と「食品添加物」(57.7%)が約6割で高く、次いで、「偽装表示」(45.3%)が4割台で続いている。

— 「偽装表示」が約18ポイント増加—

前回調査(平成25年)と比べると、「偽装表示」が約18ポイント、「輸入食品」が約15ポイント増加している。一方、「放射能汚染」は約37ポイント減少している。

—鹿行で「輸入食品」が約7割—

地域別でみると、「輸入食品」は、鹿行（70.4%）で約7割と最も高くなっている。

—女性で「食品添加物」が男性よりも約8ポイント高い—

性別でみると、「食品添加物」は、女性（61.3%）が男性（53.0%）よりも約8ポイント高くなっている。

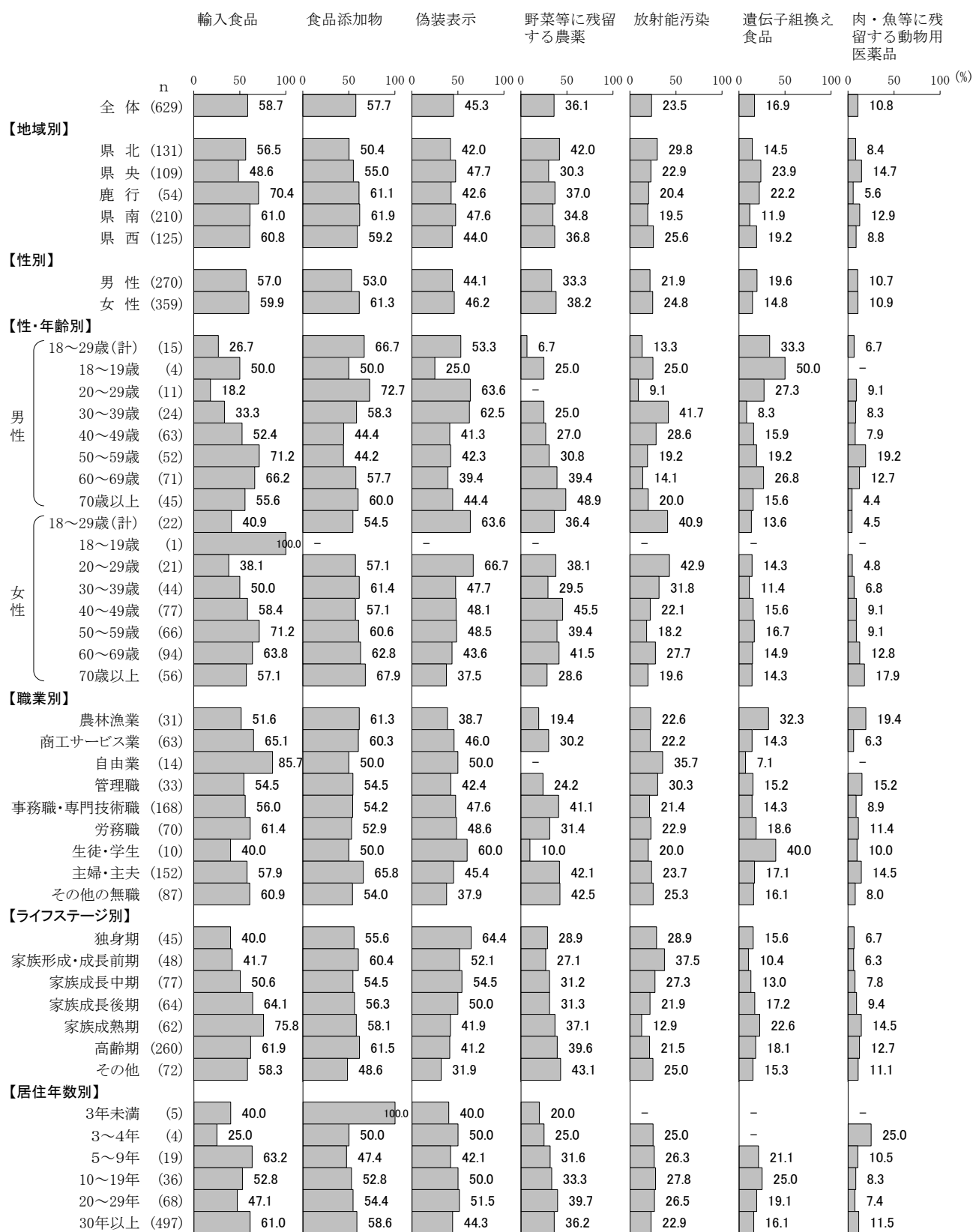
—男女の50代で「輸入食品」が7割超—

性・年齢別でみると、「輸入食品」は、男性の50代と女性の50代（いずれも71.2%）で7割を超えて高くなっている。

—女性の70歳以上で「食品添加物」が約7割—

性・年齢別でみると、「食品添加物」は、女性の70歳以上（67.9%）で約7割と高くなっている。

図Ⅶ 19-1-1 食の安全に対して不安に感じること
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別—上位7項目)



(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

表Ⅶ 19-1-1 食の安全に対して不安に感じること
 (前回調査との比較-上位5項目)

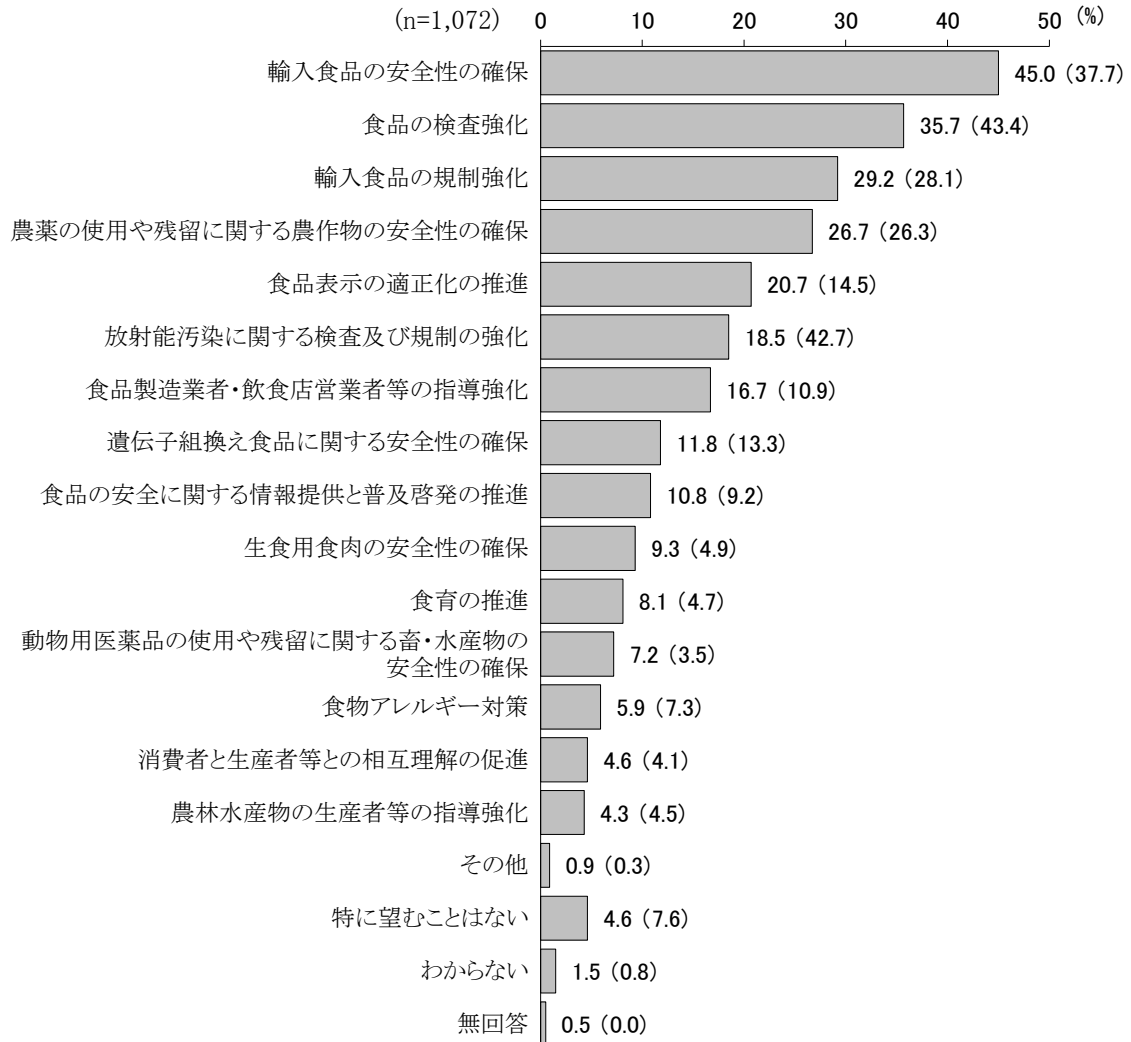
(単位：%)

	1位	2位	3位	4位	5位
今回調査 (H29) n=629	輸入食品 58.7	食品添加物 57.7	偽装表示 45.3	野菜等に残留する 農薬 36.1	放射能汚染 23.5
前回調査 (H25) n=669	放射能汚染 60.4	食品添加物 47.2	輸入食品 44.1	野菜等に残留する 農薬 42.3	偽装表示 27.7

2. 県に望む食の安全対策

－「輸入食品の安全性の確保」が4割台半ば－

問20 あなたは、県に対して、食の安全への対策として主にどのようなことを望みますか。次の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。



※()内の数値は、平成25年の調査結果

県に対して、食の安全への対策として望むこととしては、「輸入食品の安全性の確保」(45.0%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「食品の検査強化」(35.7%)が3割台、「輸入食品の規制強化」(29.2%)、「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」(26.7%)、「食品表示の適正化の推進」(20.7%)が2割台で続いている。

－「輸入食品の安全性の確保」が約7ポイント増加－

前回調査(平成25年)と比べると、「輸入食品の安全性の確保」が約7ポイント増加している。一方、「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」は約24ポイント減少している。

—県央と鹿行で「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」が3割台半ば—

地域別でみると、「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」は、県央（36.1%）と鹿行（34.1%）で3割台半ばと高くなっている。

—女性で「食品の検査強化」、「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」、「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」がいずれも男性よりも約5ポイント高い—

性別でみると、「食品の検査強化」は、女性（38.0%）が男性（33.2%）よりも約5ポイント、「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」も、女性（28.9%）が男性（24.2%）よりも約5ポイント、「放射能汚染に関する検査及び規制の強化」も、女性（20.7%）が男性（16.0%）よりも約5ポイント高くなっている。

—男女の50代で「輸入食品の安全性の確保」が5割超—

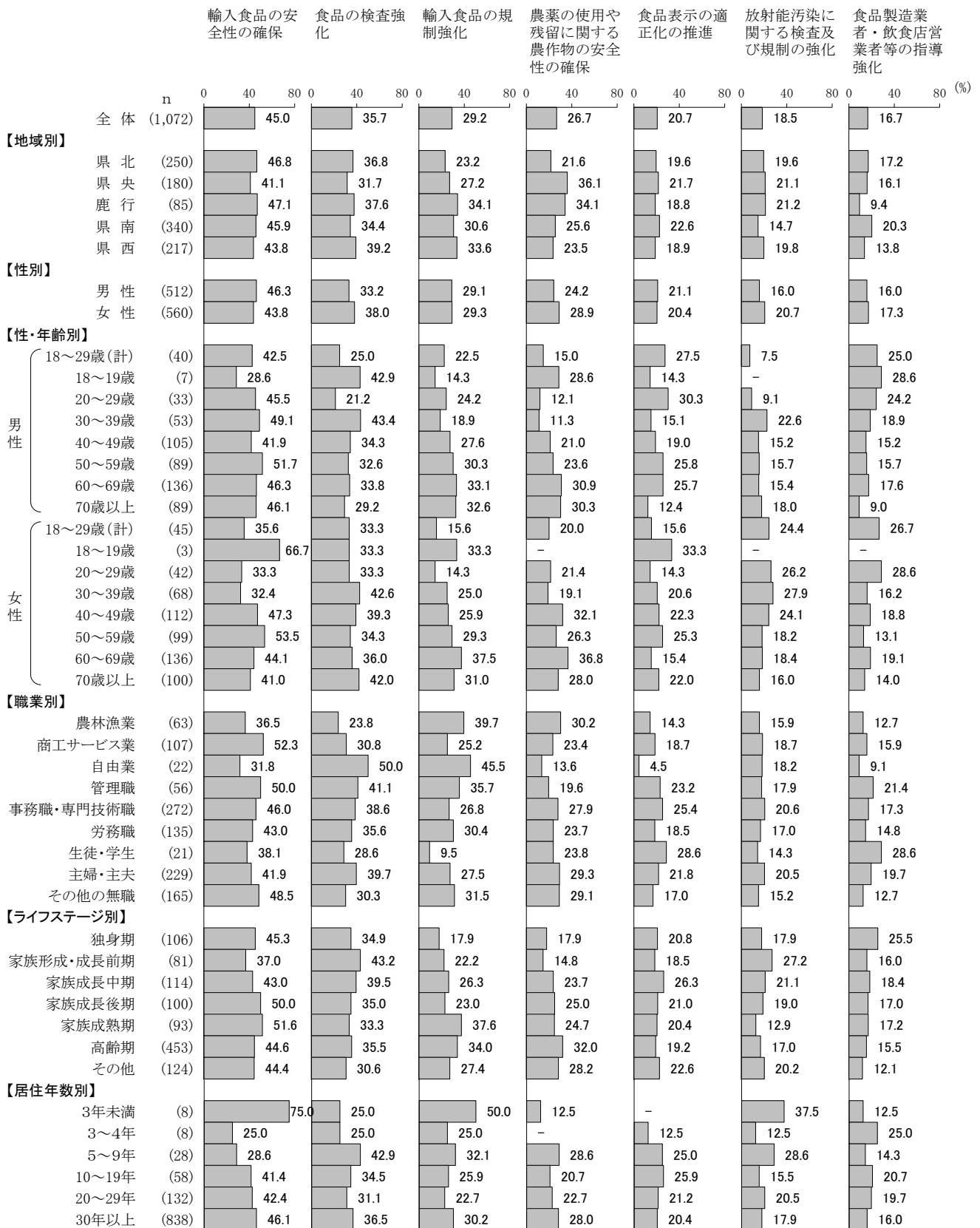
性・年齢別でみると、「輸入食品の安全性の確保」は、男性の50代（51.7%）と女性の50代（53.5%）で5割を超えて高くなっている。

—男性の30代、女性の30代、70歳以上で「食品の検査強化」が4割超—

性・年齢別でみると、「食品の検査強化」は、男性の30代（43.4%）、女性の30代（42.6%）、70歳以上（42.0%）で4割を超えて高くなっている。

図Ⅶ 20-1 県に望む食の安全対策

(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別—上位7項目)



(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

表Ⅶ 20－1 県に望む食の安全対策
 (前回調査との比較－上位5項目)

(単位：%)

	1位	2位	3位	4位	5位
今回調査 (H29) n=1,072	輸入食品の安全性の確保 45.0	食品の検査強化 35.7	輸入食品の規制強化 29.2	農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保 26.7	食品表示の適正化の推進 20.7
前回調査 (H25) n=1,101	食品の検査強化 43.4	放射能汚染に関する検査及び規制の強化 42.7	輸入食品の安全性の確保 37.7	輸入食品の規制強化 28.1	農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保 26.3